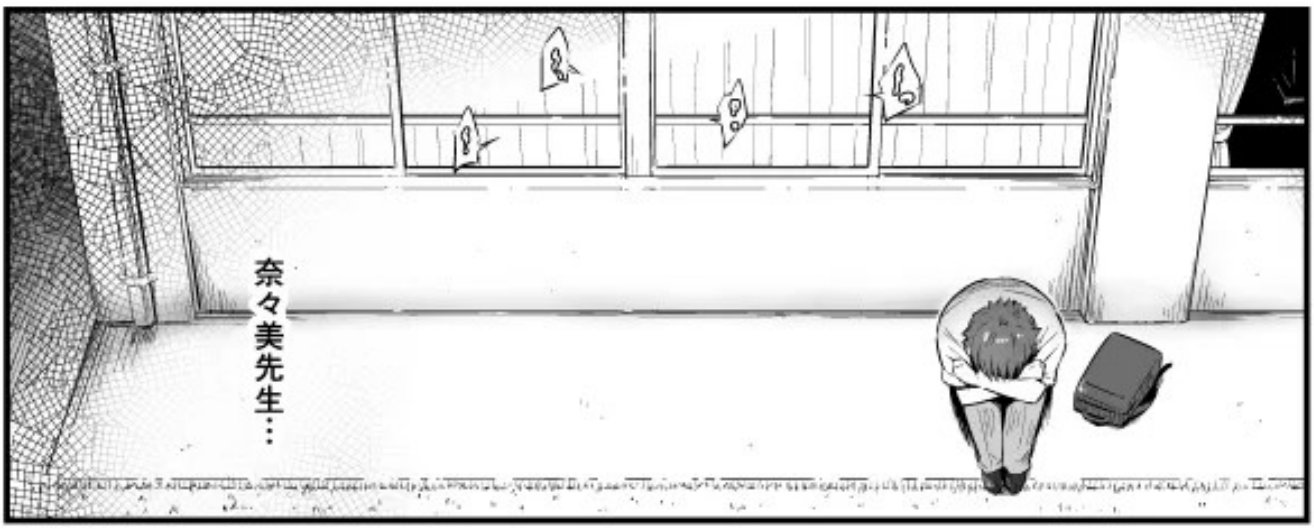
なんで…
ん
ん
ん
ん
しゅぽっ
しゅぽっ
んぶっ
んぐっ

ぐっ
終わったはずじゃなかったの？
はっ
はっ
にちゃ…
にゅっ
ぬっ

パンッ
パンッ
パンッ
じゅぼっ…
じゅぼっ
じゅぼっ
ん
ん
ん
あっ
あっ
あっ
あっ


奈々美先生…

30分前
ああ
来てくれましたか

…なにか
御用ですか？

ふふ…

奈々美先生

どうだった？
あれから

な…なにが…
ですか…？
とぼけなくて
いいぞ？
ずっと僕のことを
想っていて
くれたんだろう？

そ…
そんなこと…っ！

ここ数日
体調不良ということで
休んでいたみたいだが…

疼いただろう？
身体が
求めただろう？
僕を想いながら
火照った身体を―
スス
ピトッ

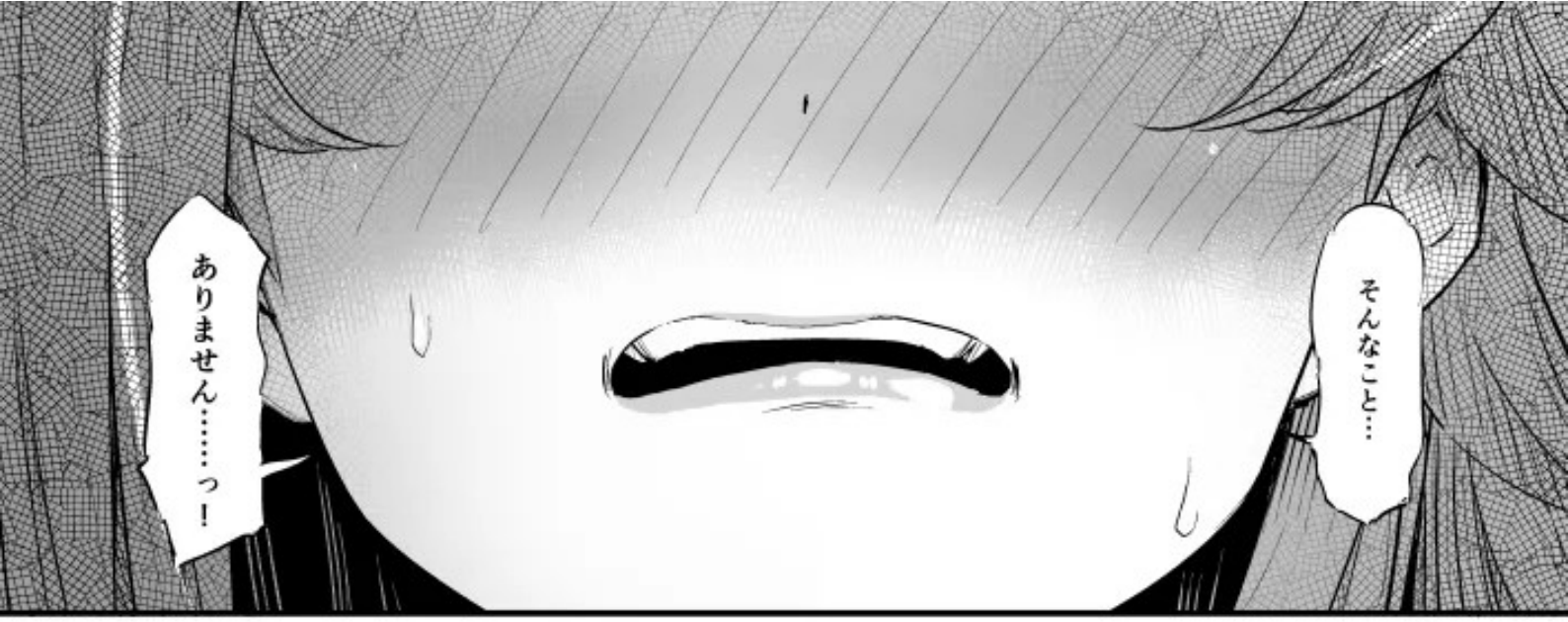
慰めていたんだろう？

っ!!
この1週間
毎日犯されて
いきなり
止められたんだもんなぁ
いっ
いっ

また…
準備室の整理
手伝って
くれますよね？
ずっ
ずっ

…それは…
終わったはずです…
そうですかね？
ハァ
ハァ
ハッ
ハッ

自分で慰めて
満足できたのか？
本当はこれを
期待して来たんだろ？


そんなこと…
ありません……っ！

それに…
わたしは教師を
辞めるつもりです…
なに？

あんなところを
辻くんに…
生徒に
見られたんです
ここにはもう
居られません…

まだ辻を
気にするのか…?!

録画してた
あの時の映像を
確認したが
あいつ
棚に隠れて
見てたのな
……
でもあいつは
黙っているじゃないか

心配するな
大丈夫だ
学校にはバレない
そういう…
問題じゃ…

あんなのを
見られたんだ！
もう終わりだ！

いい加減
辻は忘れろっ!!

思い出せっ！
これで膣内を
掻き回されたことを！
思い出せっ！
誰に気持ちよく
させて貰ったかを！
辻では無理なんだ！
僕じゃなきゃ
ダメなんだっ！
辻なんか見るなっ！
僕だけを見ろっ!!
僕を愛せっ!!
……っ

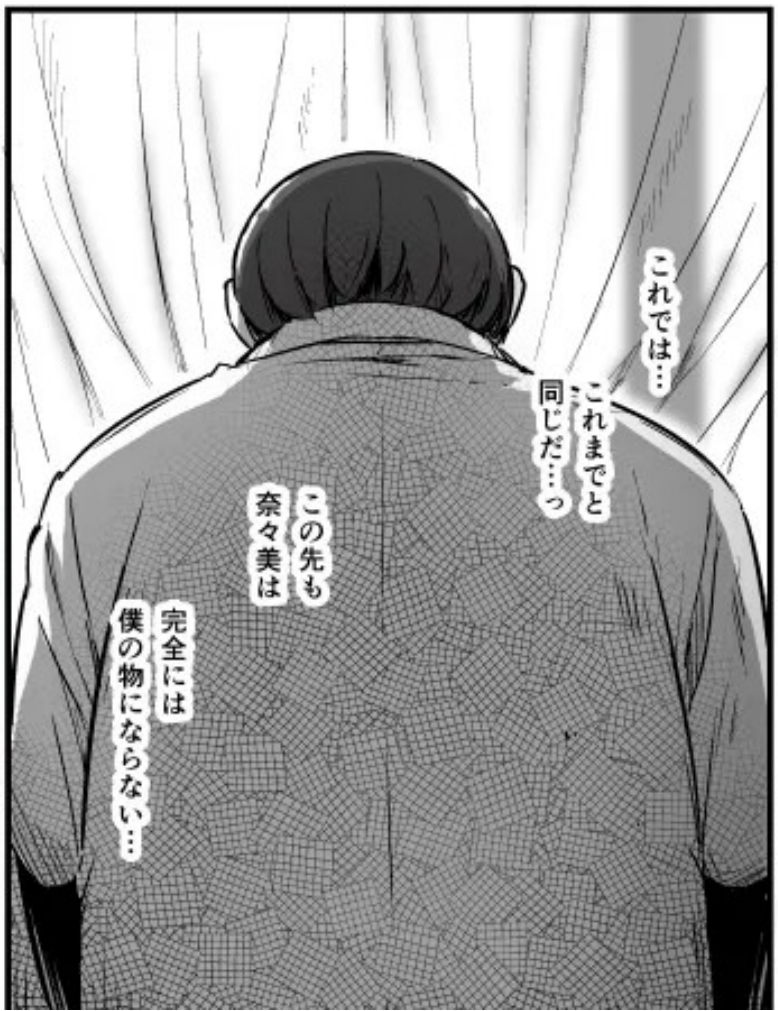
どうせ約束の相手は居ないんだ
おまえと辻の件口が滑りそうだ！
そんなっ！
奈々美が居なくなるなら
約束なんか守らなくても問題無いよな?!
ふ～んそうか！
クソっ！
ドンッ
……
わかりました…
辻くんが卒業するまで…
その期間だけ……
また辻の為だと…?
くそ……っ
意地でも僕の物にはならないつもりか…っ！
グッ
服を脱げ
奈々美…

気持ちいいだろ奈々美っ！
どうだっ！
思い出したかっ!?
もう僕のことが愛おしくてたまらないだろっ?!
僕にまた身体を委ねてるんだ！
だからこうやって
遠い…ます…っ

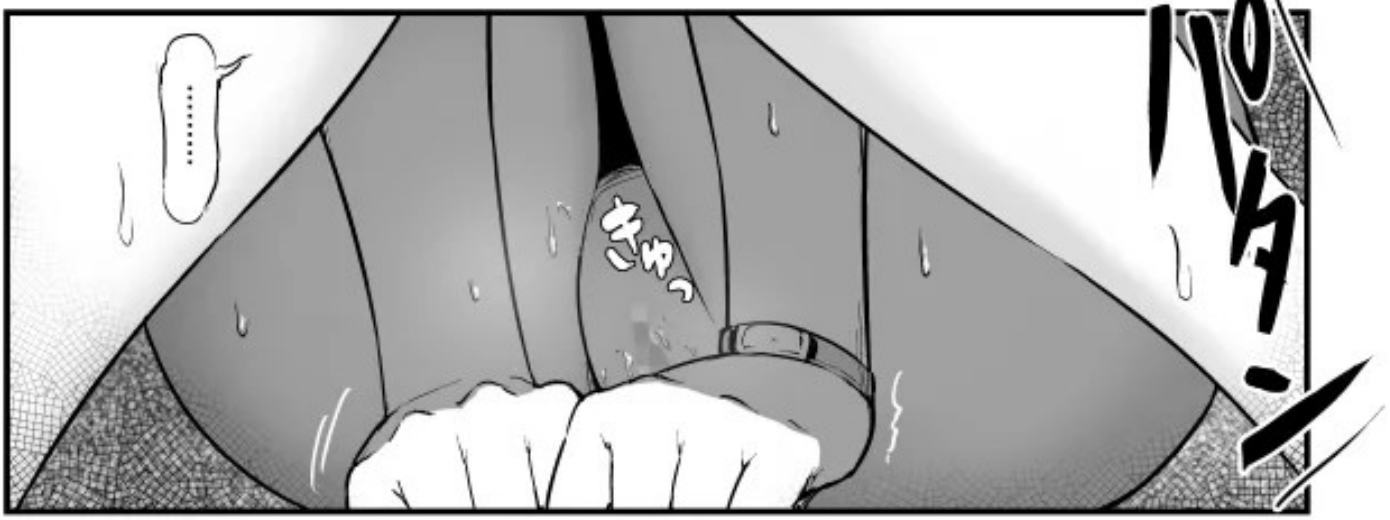
これは…
辻くんを守る為…
ですっ
また辻っ!
辻っ!!
辻っ!!
そうか!
ならそんながんばってる奈々美の姿を辻にもまた見せてやらなければな!
今録画しているデータを辻に送ってやろう
それであいつも奈々美に感謝するだろう!
そんなっ!
えっ?!
それだけは許してください!
これ以上辻くんを傷付けたくない!
うるさい!!

お願いします…っ
どうか……
くそ…っ！
くそ…っ!!
くそ…っ!!
くそ…っ!!
なんで…っ！
なんで…っ！
なんでだ…っ!!
あっ
あっ
あっ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぷっ

?

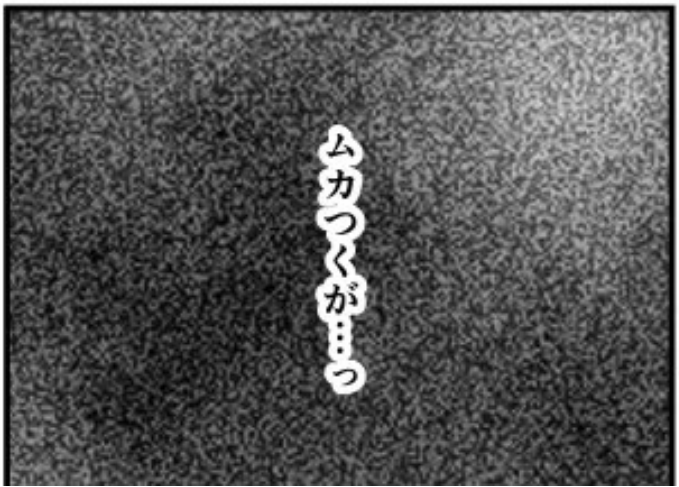

これでは…
これまでと同じだ…っ
この先も奈々美は
完全には僕の物にならない…

今日は
これで終わりだ
…え？
ペタ
明日も来い
ガチャ

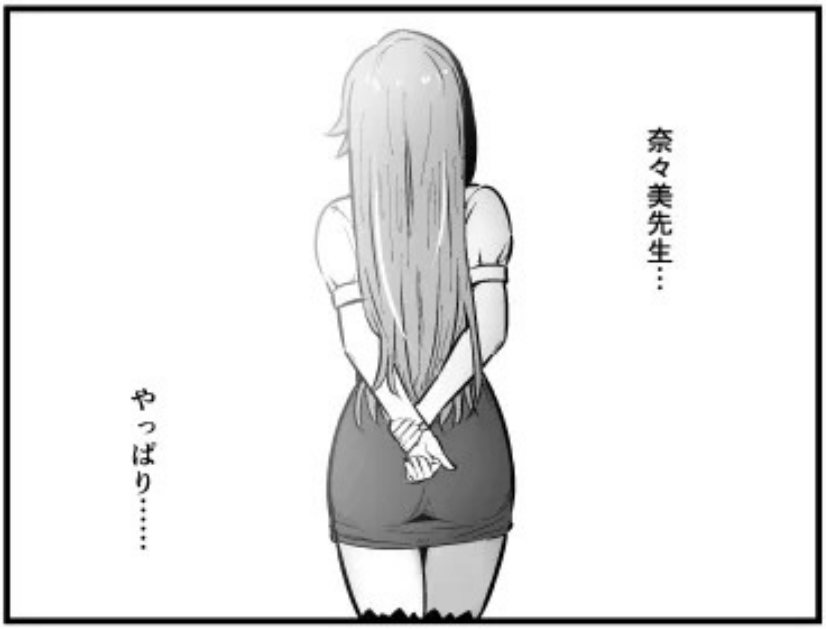

……
きゅっ
パタン

奈々美…
絶対僕の物に
してやる

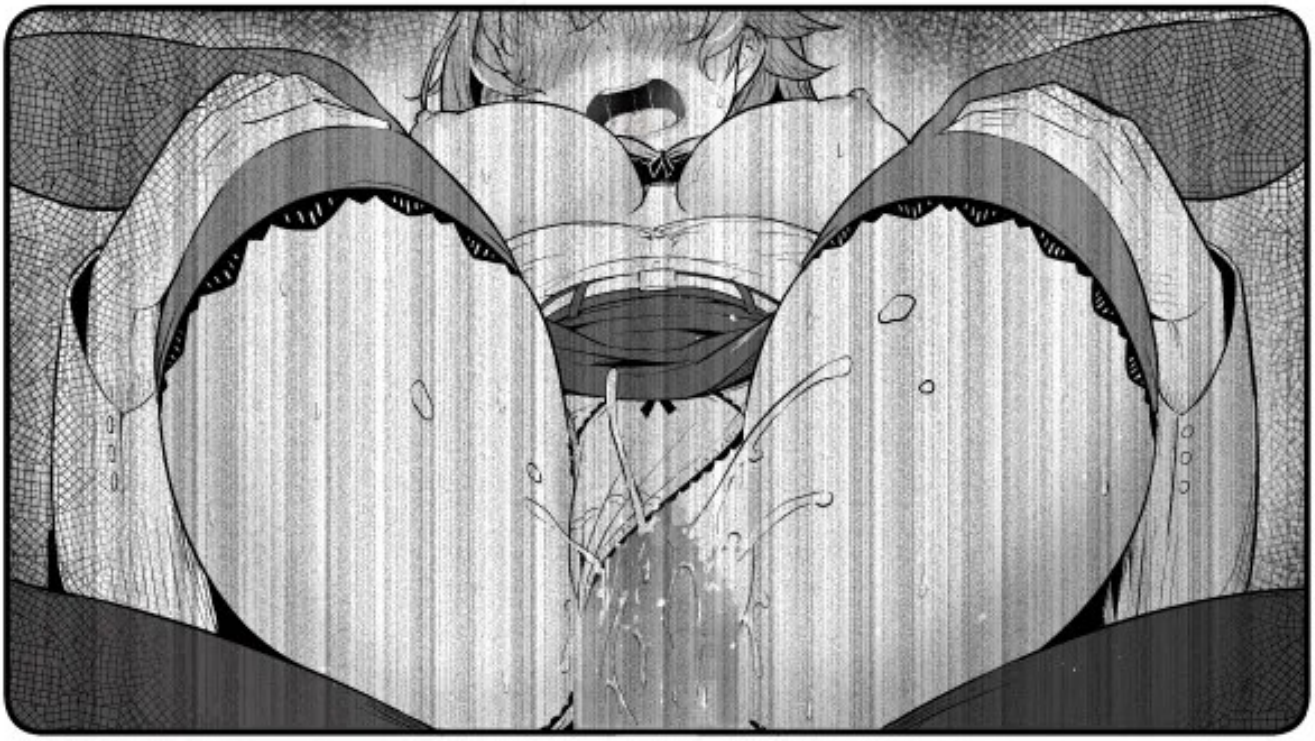
こうなったら
ギリッ
くそ…っ！


ムカつくが…っ

え…!?


奈々美先生…
やっぱり……

今…
オレの名前…



く……っ

数日後
放課後
奈々美先生が
オレの名前を言った
やっぱり
奈々美先生
なにかオレの為に
無理して…
今日もこれから…
辻

な…何の用だよ…
ふ…
教師に対する
言葉使いじゃないな
まあいい

ちょっといいか？
竹田…?!

奈々美のことだ…
！

おまえ
あの時
準備室にいたな？
!

あ…
あの時…？
ふふ…
なんで学校に
報告しない？
奈々美の為か？
……

奈々美先生は…
たぶん
オレの為に…
だからオレはっ！

本当にそう思うか？
違うぞ？
奈々美が僕を
愛しているからだ

はあ?!
おまえが何かで
奈々美先生を脅して
こんなことに
なってるだけだろ！
バカなこと言うな！

いいや
奈々美は本心で僕に抱かれている
アホか
そんなことあるわけないだろ
ニヤッ

……

なら証拠を見せてやろう
ついて来い

ん？
どうした？
やっぱり認めるのか？

く……っ

化学準備室
化学準備室
ここだ
く…っ
やっぱり…
ゴクッ
ガチャッ
!!

奈々美先生…?!

なんで…
こんな格好…
ふふ…
奈々美の趣味だ
はぁ?!
奈々美先生っ!
無駄だぞ?
こっちの声は届かない
大音量で音楽再生中だ
シャカシャカシャカ♪
何を…
やって…
恥ずかしい格好をして
「見えない」「聞こえない」
奈々美はさぞ興奮しているだろうな
え?
ガシッ

もにゅっ
違…っ!!
うわ…っ!
キャッ
た…
竹田先生…?!
!
あ…
あの…
竹田先生…

は…
早く……
!!

奈々美…先生…？
何…
言って…

ふふ…
奈々美はもう限界だ
ここ数日奈々美がイく寸前で止めてやった

今日もさっきまで―

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
はぁ
はぁ
はぁ

ここ数日すまんなぁ
途中で辞めてばかりだ
最近調子が悪くてな
ひくっ
ひくっ
ん～今日もダメだ
ぷっ
あ…
チンコがすぐ萎えてしまう
……

とろ…

はむ
はむ

どうした？
そんなに熱く見つめて

そうか
そうか
そんなに僕のチンポを挿れて欲しいのか

僕のチンポがそんなに欲しいのか？
そ…
そんな…こと…

仕方ない
これから用事があるのでな
それを済ませた後で楽しませてやる

しかし
ただ待ってるのも
あれだろう
待ち時間も
楽しませてやろう

ほら
僕を待って
いただろ?

わかったか?
奈々美と僕は
そういうことなんだ
……
だが
おまえも
心残りが
あるだろう
?

1回だけだ
憧れの奈々美先生を味合わせてやる
はぁ?!
ふ…
ふざけんな…っ
ん~?
いいのか?
こんなチャンスはもう来ないぞ?
いいぞ
奈々美を好きにして
?!

な…
なんでそんなこと…
させるんだ？
ん？
まあお互い
同じ女に惹かれたんだ
負けたおまえへの
お情けだよ

さっきは
どうだった？
憧れの先生の
おっぱいは
柔らかかったか？

目隠しもしてるし
ヘッドホンも
大音量だ
お前だってことは
バレない
……

ふん
まあ僕は
どっちでもいいんだ
後は
好きにするといい
ガチャ

奈々美先生と
二人っきり

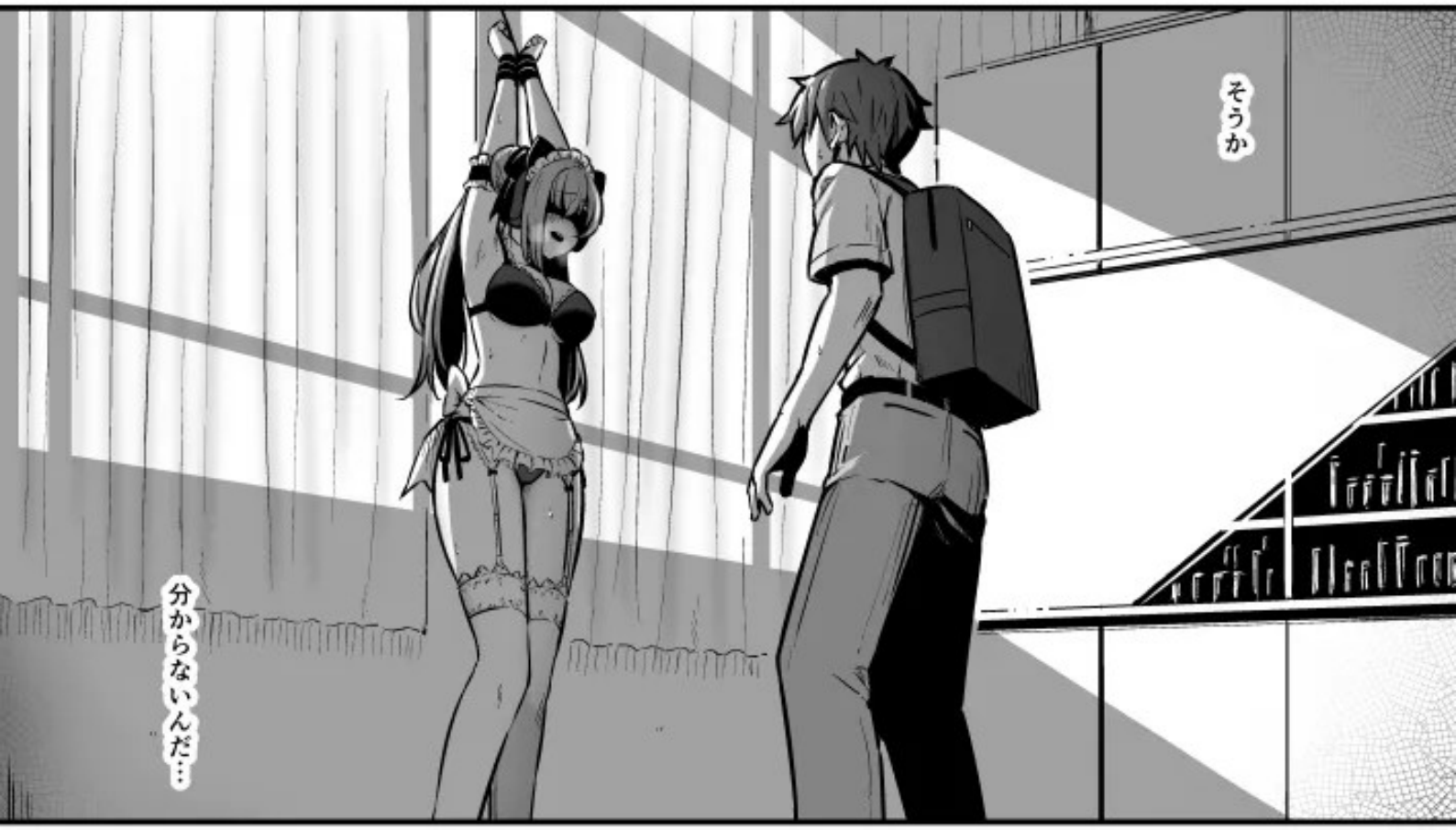
パタン

竹田が
居ない今なら
奈々美先生を
解放できるじゃないか！
そうだ…っ
ここ

ピタッ
……

でも
解放して
どうなる？
奈々美先生はもう
竹田を受け入れてる
それにここで
目隠しを外して
居ないはずのオレを見て
奈々美先生はどう思う？
あ…

今ここに居るのは
オレだと
分からないんだ


そうか
分からないんだ…

奈々美先生…

奈々美先生…っ！

ひゃと…
ハァ
ハァ

あっ
もにゅっ

ドキドキ
柔らかい…
温かい…

オレ…
あの
奈々美先生の…
おっぱい

ドキドキドキ
揉んじゃってる…

もにゅっ
くりっ
くりっ
まあっ
はあっ
もみっ
はあっ
もみっ

はぁ…っ
はぁ…っ
ぐぃっ
ぐぃぐぃぐぃ～っ
ぐぃ
ぐぃ
あぁ…
あ…

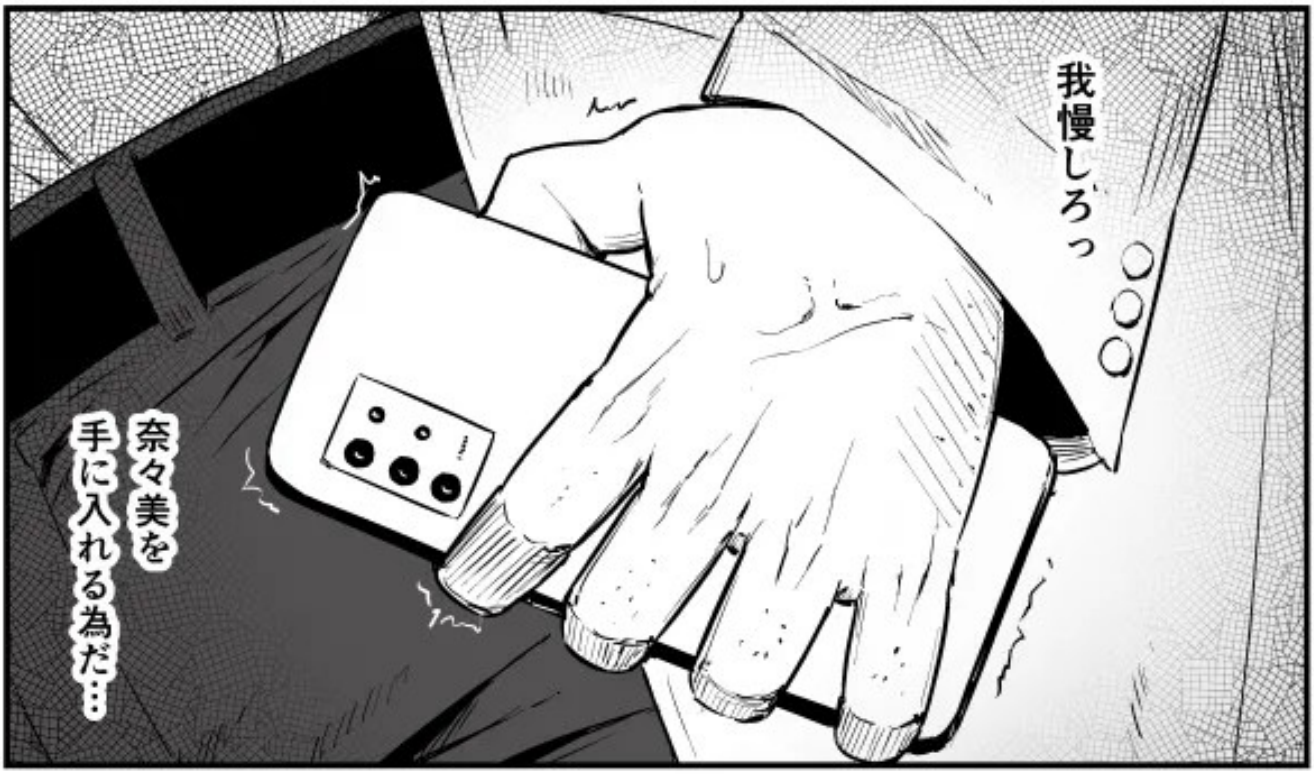
奈々美先生っ！
奈々美先生っ！
もにゅっ
もにゅっ
奈々美先生っ！
この甘い香りっ
くんくんくん
いつも隣でっ
オレの大好きな…
じゅるるっ

ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ

ぐ…っ

くそ…
我慢だ

化学準備室
ぐぐ…っ


我慢しろっ
奈々美を
手に入れる為だ…

スルッ
スススス……
はぁ…っ！
はぁ…っ！
はぁっ！
はぁっ！
奈々美先生っ！
奈々美先生っ！
スリスリ
はぁっ！

あぁっ
奈々美先生の体温っ！
奈々美先生の匂いっ！
？
くちゅ…
じわ…
はっ
はっ

むちゅっ
これが
奈々美先生の…
はっ
はっ
うわ…
むちゅ
ここもすごい
柔らかいんだ…
くちゅっ
くちゅっ
ビクッ
ビクッ
んん…

熱っ！
ちゅっ
吸い付く…っ
にゅにゅにゅ～！
すごい
ヌルヌルで…
す…
あの
奈々美先生が
ビクッ
はっ
はっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
オレの指で
反応してる…っ！
奈々美先生
トロトロ…
ドちゃあ
こんな膣内に
ちんぽ挿入れたら
どんなに…っ
早く…
？

早く
挿入れてください

はっ
はっ
はっ

あ…
あああ

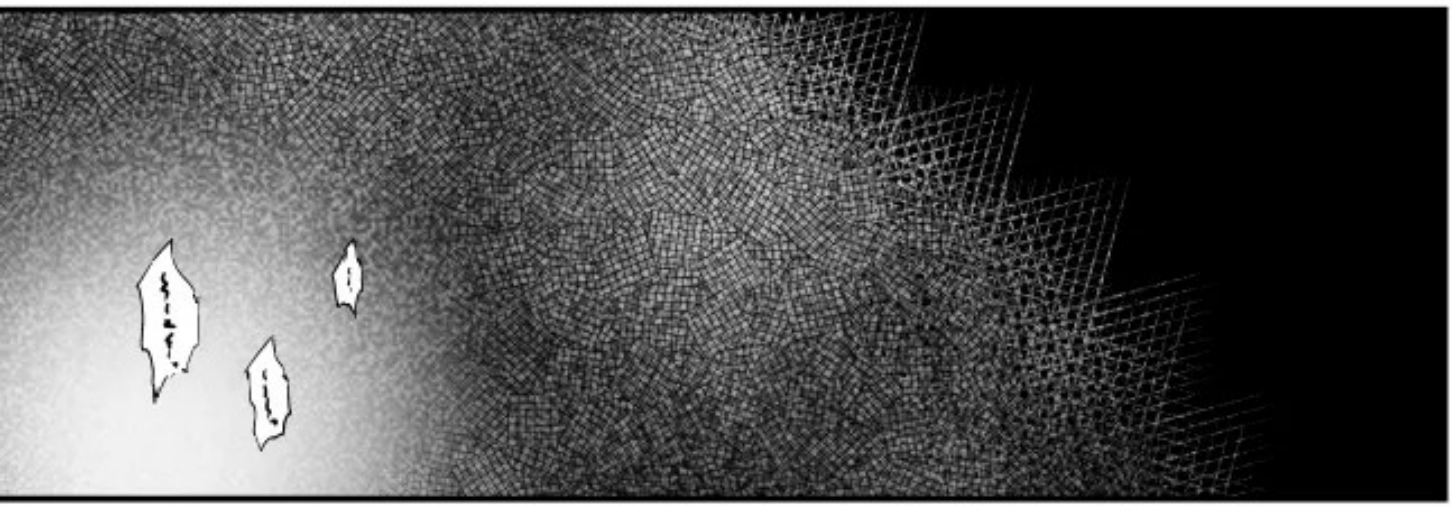
……っ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
辻くん
あああっ！

ふ…
ふおぉ…っ
ぷるる
ぷるる

こ…
これが
奈々美先生の
膣内(なか)…
にゅる
すごい熱くて…
ぐちょぐちょ
はぁっ！
とちゅっ
はぁっ！
とちゅっ
溶ける…っ！
気持ちいいっ！
ダメだと
思っていながら
いつも妄想していた
その奈々美先生に
オレは…っ!!

ああああ…っ！
ガサッ
ガサッ
はぁっ！
はぁっ！
奈々美先生っ!!
好きだ！
好きだ！
ガサッ
ガサッ
ガサッ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
好きだ!!

今だっ！



はぁっ！
はぁっ！
大好きなっ
奈々美先生っ
オレのっ
先生…っ

違う…
竹田先生じゃない…っ
…え？

嫌っ!!
誰っ?!
離れてっ!!
嫌っ!!
嫌ぁっ!!

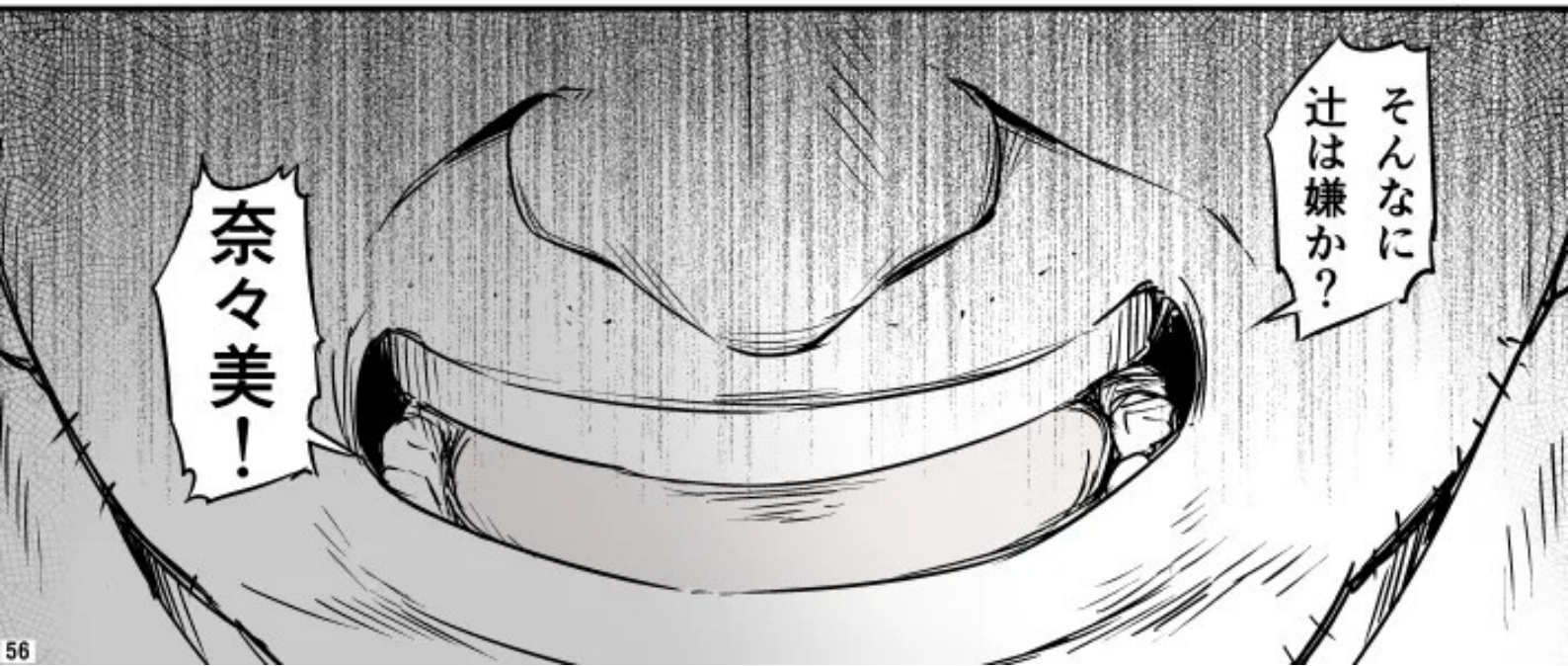
はっはっは！
やっぱり僕じゃなきゃ嫌かっ！
チャッ
いつまでやってる!?
ガシッ
早く離れろっ！
うわっ！
ああ奈々美ぃ
さぞ辛かったろう
スルッ

…え……？
辻…くん？

なん…で……？

あ…
先生…
あ…
ごめん…
オレ……

はっはっは！
そうかそうか
くっくっく
ゴッ
なるほどな～


そんなに辻は嫌か？
奈々美！

すごい拒絶っぷりだったぞ！
え……
あ……
仕方ない
奈々美が見えてないことをいいことに
勝手にちんぽ突っ込むようなー
クズだからな
あ…
ああ…
それで奈々美ー
カチャ
クリッ

辻のちんぽはどうだった？
！

全然声も出てなかったな
僕との時はあれだけ声をあげるのに
満足できなかったんじゃないのか？

どうだ？
僕のこれが恋しいだろ？
そ…
そんなこと…

…待って！
！

そうか
もう
忘れたかぁ
なら
僕のちんぽを
たっぷり
思い出させてやる

くちゅ
あぁん!!
ぐちゅぐちゅ
くっ…うぅ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
はぁ
あぁ

ぎゅちゅっ
ぎゅちゅっ
ぎゅちゅっ
ぎゅちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ははははっ
どうだっ！
どうだっ！
あっ
あっ
思い出したかっ！

ここ数日
ずっとおまえが
待ち望んでいたものだ！
こうやって
疼く膣内をっ
掻き回して
欲しかったんだろっ?!
あっ
あっ
あっ
奈々美先生…
オレの時とは
全然違う…
こいつのが
そんなに
んあっ

あっ
あっ
あんっ
パンパンパンパン
気持ちいいの…？
ああ～
すごい
吸い付きだっ
ちゅっ
やっぱり
僕のちんぽが
大好きかっ！
ちゅっ
こっちの
ちんぽのほうが
イイって
辻に
言ってやれ！
ちゅっ
はっ
はっ
あっ
あっ

辻くん
ごめんね
…え？

巻き込んじゃって
ゴメン…

え…？
先生……？

せめて
最後に…

こいつっ!!
あぁっ
何勝手なことしてるっ!?
クソっ!
これでもまだ辻のことをっ!!
このっ!
ぱっ
このっ!!
あぁ!!!
あん
しゅぱっ

まだ分からないのかっ!?
おまえの身体は僕が1番知っているんだ!
ここを擦ってからっ
こうだっ!!
ほらっ!
たまらないだろ?!
ほらっ!
ほらっ!
ほらっ!!

どうしたっ!?
辻のちんぽを放置してるぞ?!
しゃぶってみろ!
ほらっ!
しゃぶってみろ!!
おまえをこんなに分かってやれるのは
辻ではなく僕なんだ!!
僕しか居ないんだっ!
奈々美先生…

膣内がきゅきゅっと締まってきたな！
ぐちゅっ
イきそうなんだろ?!
もちろん分かってるぞ?!
ぐちゅっ
ほらイけっ！
あっ
あっ
イけっ！
パンパンパンパン
辻なんか無視して盛大にっ
ビクビクビクビク
イけっ!!
ぐちゅっ
あおおお!!♡

どうだ分かったか
おまえは辻なんかより
僕を愛しているんだ

あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あんっ
あっ
あんっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ

あー絞まるっ
きゅっきゅっ
きゅっきゅっ
きゅっきゅっ
いきっぱなしだな！
おいおい奈々美
辻に見られて
興奮してるのか？
本当に
人に見られるのが
大好きだなっ
奈々美先生…

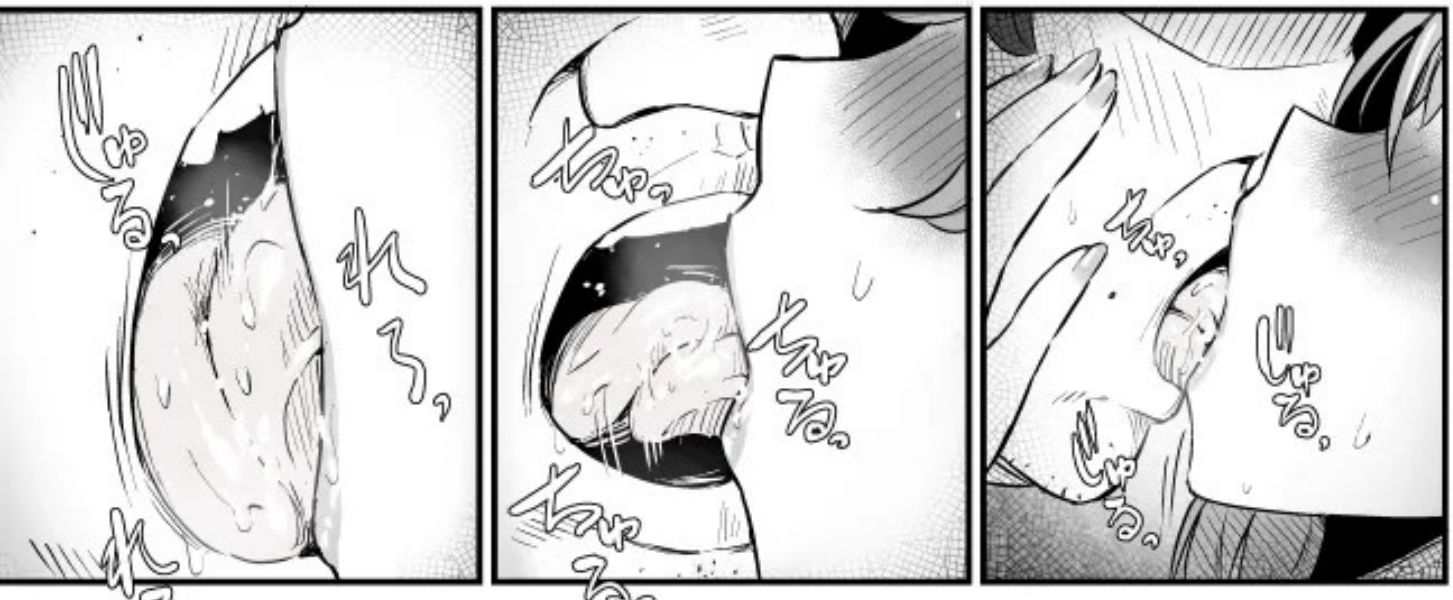
「え？」
「なに!?なに!?」
「なにが聞きたい?!」

「ふふっ！」

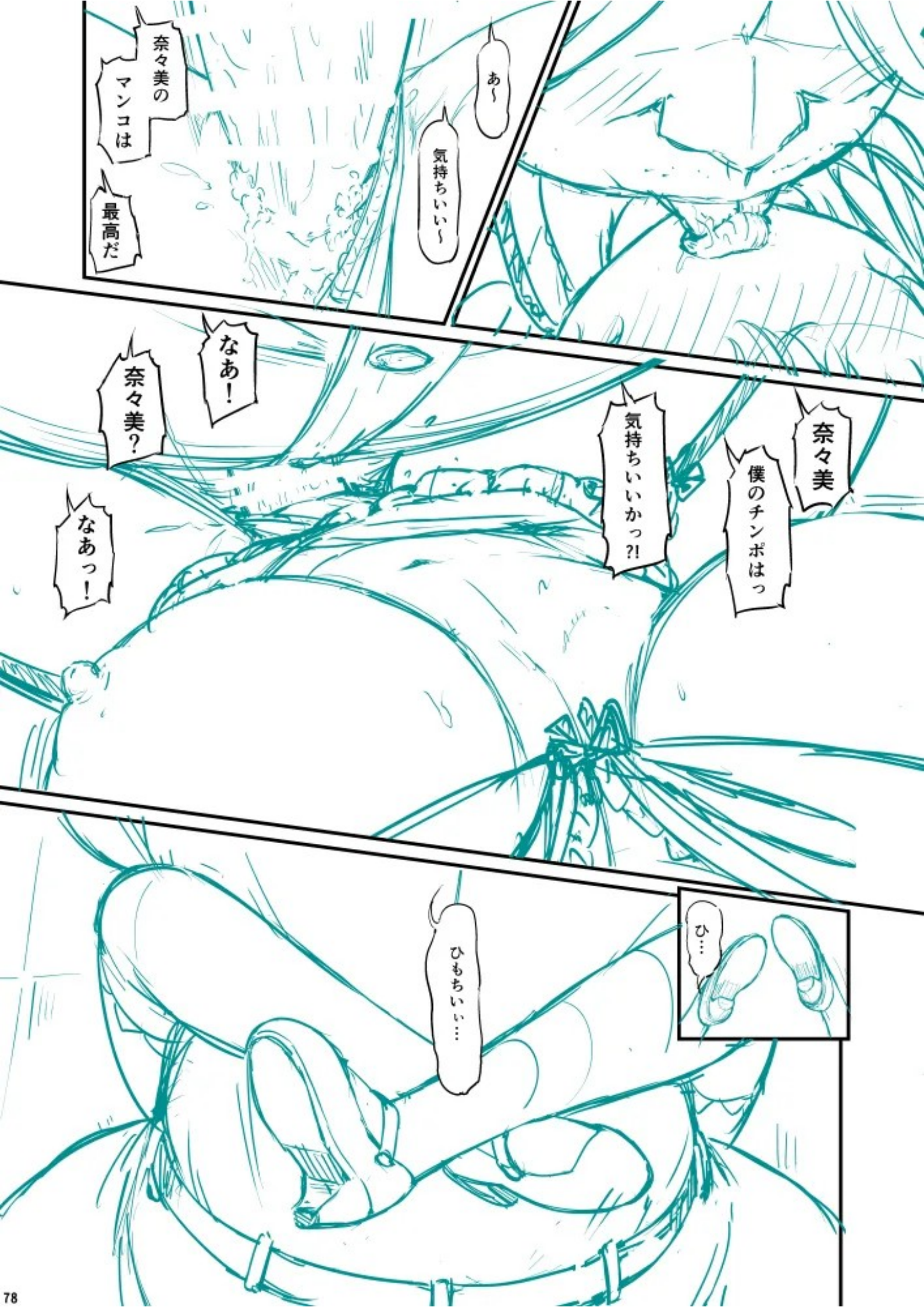
おおおっ
パン
あんっ
パン
あんっ
パン
あんっ
パン
なあ奈々美っ
キスをしてくれたらもっと気持ち良くしてやるぞっ？
スリスリ
……もっ……と……？
！

「少し屈んで？」
「…そう」
「じっとしててね…」

か…
は……


じゅる
れろ
れろ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
じゅる
じゅる

ああ…わかった！
一緒に気持ち良くなろうなっ！


奈々美のマンコは最高だ
あ～
気持ちいい～
奈々美
僕のチンポはっ
気持ちいいかっ?!
なあ!
奈々美?
なあっ!
ひ…
ひもちいぃ…

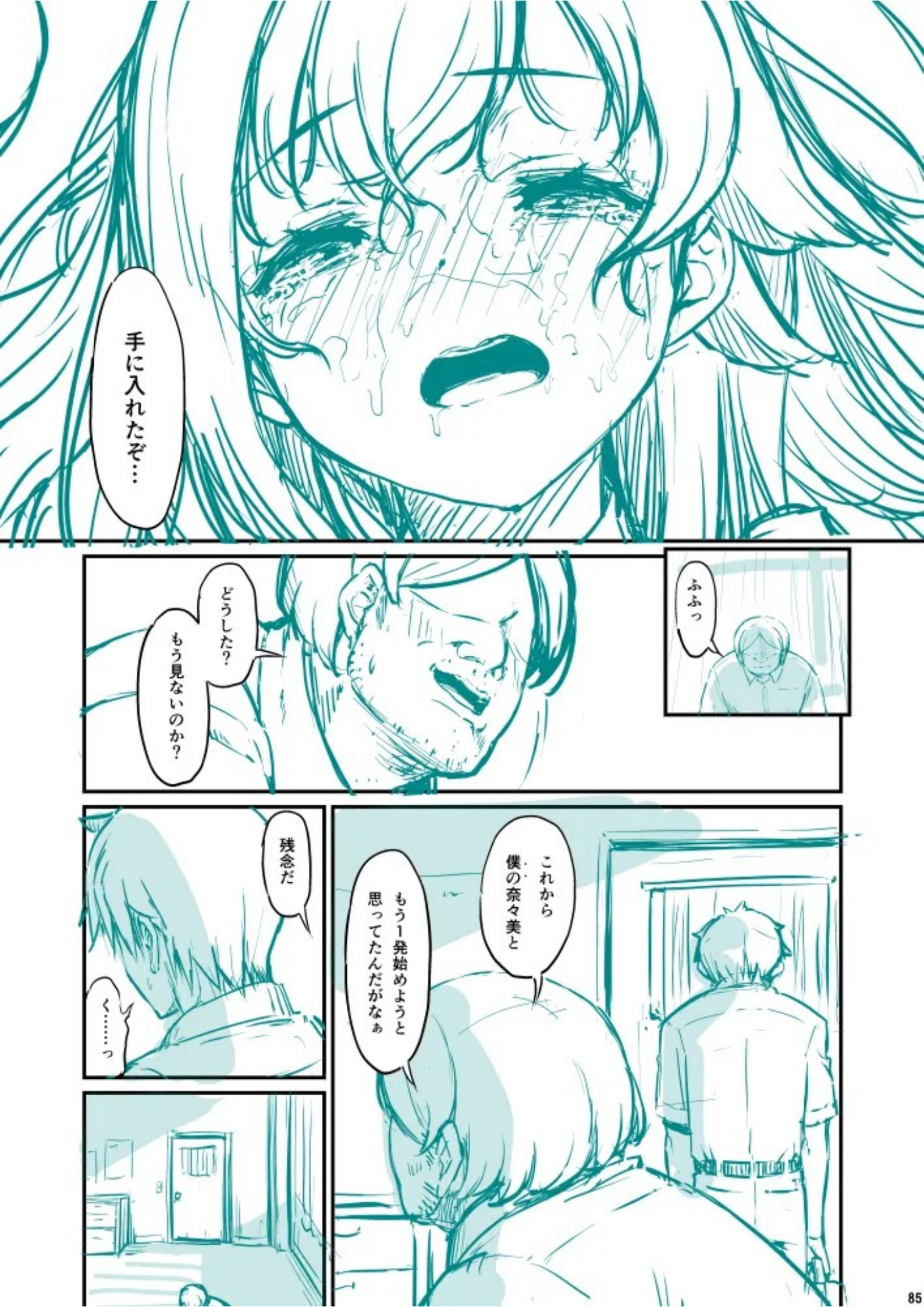
おぉ…っ?!
くぅ…っ
奈々美……っ
くぁ…っ！
はぁ…っ
はぁ…っ
最高だっ！
奈々美…っ！
奈々美っ！
おおお…っ!!

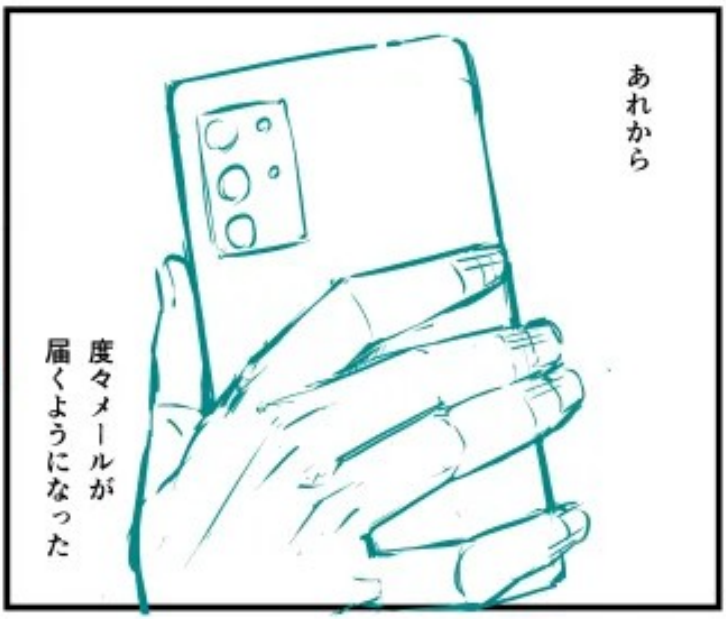
奈々美…っ！
僕を…っ
愛しているかっ?!
イかせて欲しいなら…っ
答えろっ！
はぁ…っ
はぁ…っ
奈々美っ!!
愛しているかぁっ?!

愛してますっ！
おおおっ！
そうかっ！
愛していますっ!!
嬉しいぞ
奈々美っ!!
僕も愛してるぞっ!!

愛し合う者…同士っ
一緒にっ
イクぞっ！
どこに欲しい?!
言ってみろっ!?
よしっ！
膣内にっ
射精すぞっ！
な…っ
膣内に…っ！

はぁ～～
はぁ…
はぁ…
ようやく…
ようやくだ…
奈々美を
完全に

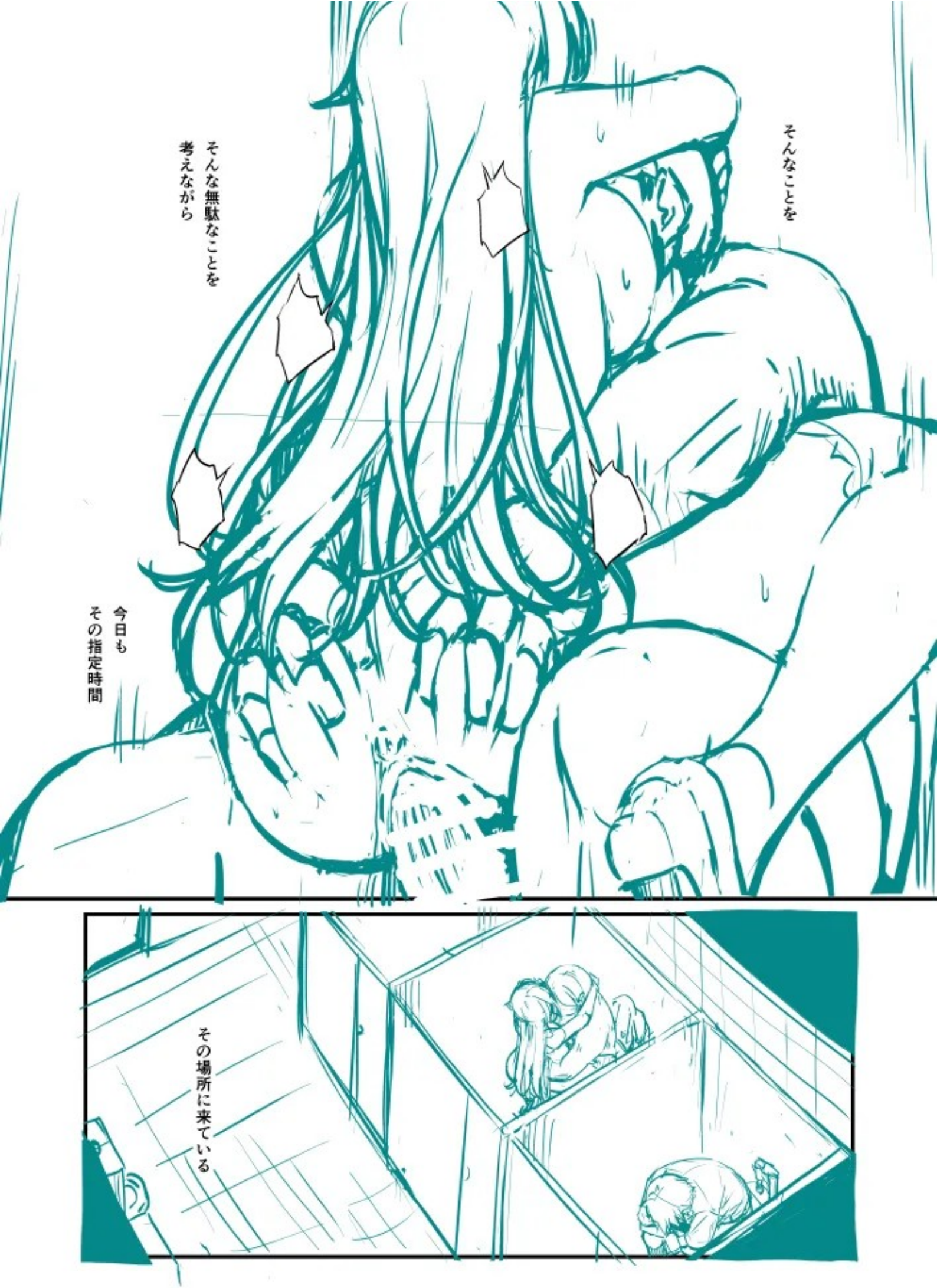

手に入れたぞ…
ふふっ
どうした？
もう見ないのか？
これから
僕の奈々美と
もう1発始めようと
思ってたんだがなぁ
残念だ
く……っ


あれから
度々メールが
届くようになった

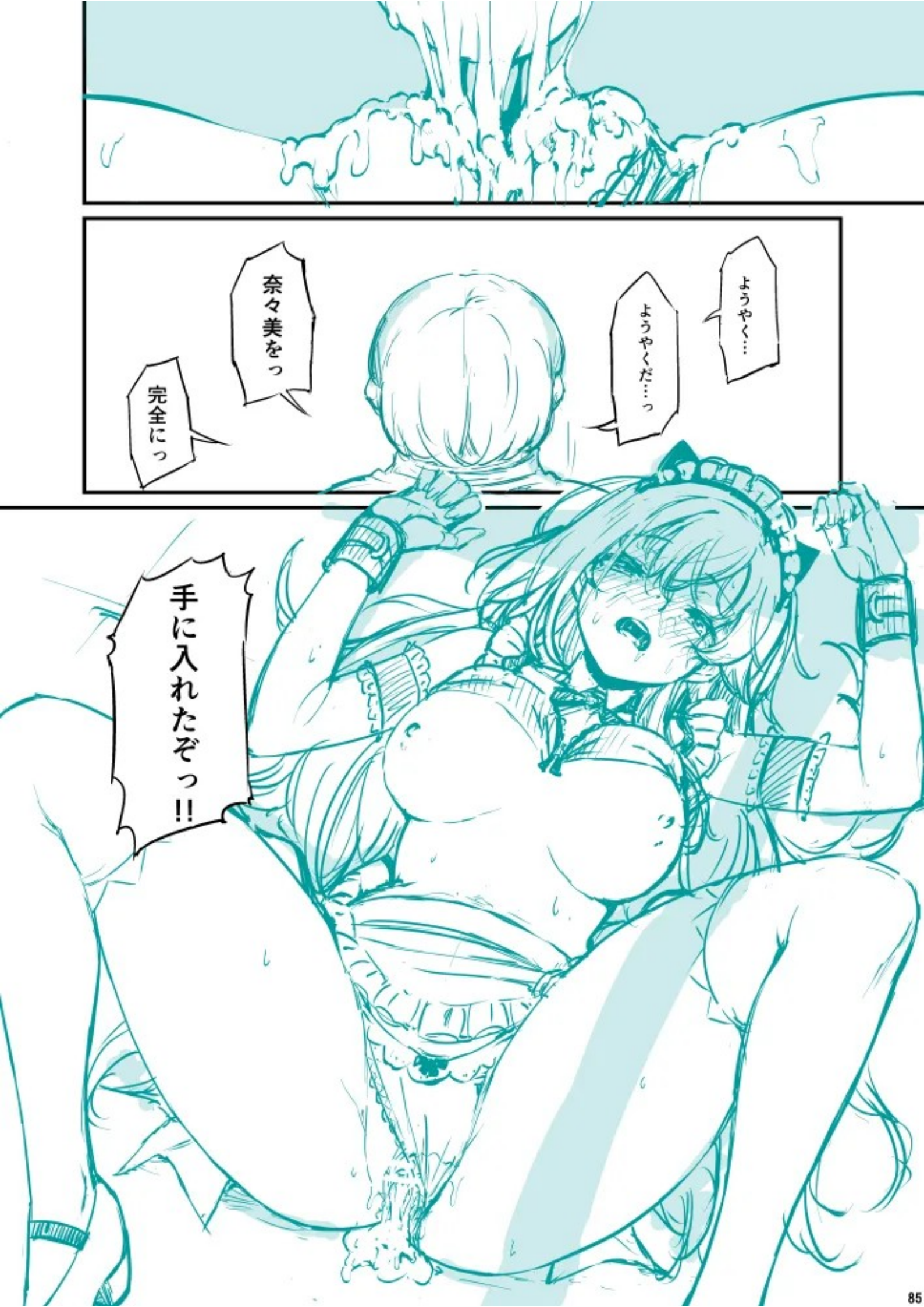
内容は
場所と時間
それだけ

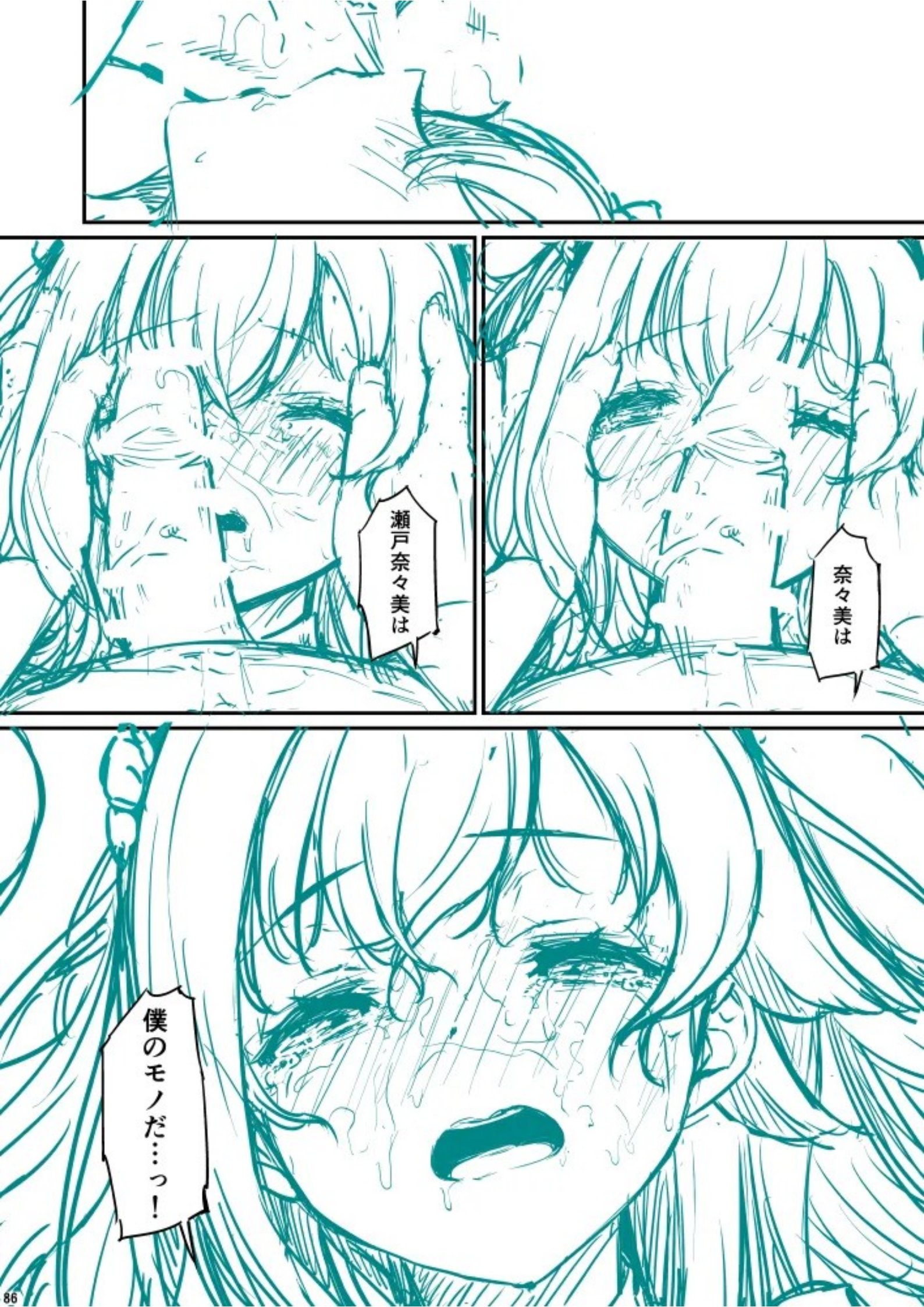
07:30
化学室
13:00
化学準備室
だれが
送ってきてるかは
分からない
16:30
教員用トイレ
17:00
化学準備室
返信する気は
しなかった

あの時
我慢していたら
奈々美先生を
助けていたら…
違う結果に
なったんだろうか…


そんなことを
そんな無駄なことを
考えながら
今日も
その指定時間
その場所に来ている

うぐぐ～っ！
ふんっ！
ふんっ！
ふんっ！
ふんんっ!!


ようやく…
ようやくだ…っ
奈々美をっ
完全にっ
手に入れたぞっ!!

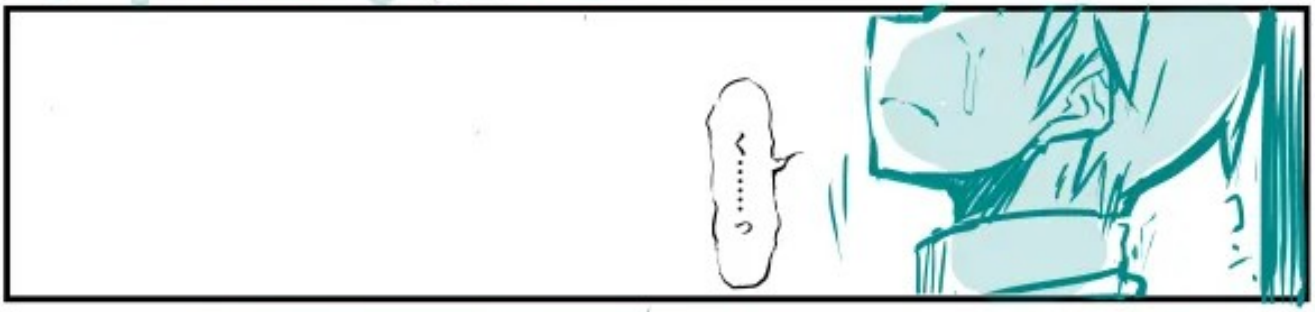

瀬戸奈々美は
奈々美は
僕のモノだ…っ！

どうした？
もう見ないのか？

ふふっ

残念だ
……

これから
僕の奈々美と
もう1発始めようと
思ってたんだがなぁ


く……っ